

地域における福祉の推進（学校教育への協力）

4年前、地元にある東部中学校の依頼で、新しくその年から始まった「東部中コミュニティ大学」の「福祉学科1年生」の授業の講師を引き受け、生徒さんたちと一緒に福祉について考えたり、すこやかかみの利用者とも交流している。活動を通じて、生徒さんたちの福祉に対する理解の促進・意識の変化が見られるなど成果を得ている。

社会福祉法人 **すこやかかみ**

〒440-0833 愛知県豊橋市飯村町字高山118番地
TEL：0532-64-7771 / FAX：0532-64-7772 / E-Mail：sukoyakanosato@viola.ocn.jp

【法人の概要】

法人設立年：1994年7月
経営施設、事業（数）：1施設、3事業
経営施設、事業（種別）：
ケアハウス すこやかかみ…1 / デイサービスセンター すこやかかみ…2 / 一般型 定員25名 認知症対応型 定員10名 / すこやかかみ 居宅介護支援事業所…1
※（法人全体で正職員は9名、嘱託・パートを含めても30名）

【法人の理念・経営方針】

～基本理念（運営理念）・目標～
老いても安心して生活できる地域づくりをめざして
①高齢者の人権を守り、尊厳ある人間としての生活が保障される、自由で文化的な、地域に開かれた施設づくりをめざします。
②住民の健康、医療、福祉の充実増進をめざして、市民のみならずと手をとりあって、地域福祉の向上をはかります。
③民主的で、思いやりのある、活発な職員集団をめざします。

実施施設の概要

施設名：すこやかかみ
施設種別：ケアハウス
 デイサービスセンター
活動開始年：2004年6月
活動の頻度・時間：月2回、1回あたり100分
 （実施内容①の福祉学科授業）
活動の対象者：地元 東部中学校の生徒さん

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人は1995年5月、ケアハウス及び、デイサービスセンターをこの地域にオープン、以来13年目を迎えている。（2000年4月居宅介護支援事業所開所）この間、すこやかかみとすこやかかみを知っていただく取り組みとしての「すこやかかみまつり」を施設開所前年に2回、またオープンしてからは1年～1年半に1回ずつ開催し、地域に親しまれている。ここ数年は地域のボランティア団体や学童保育所等もまき込んだ実行委員会形式で準備し、当日は1,000人以上の人出、ボランティアも延べ250人で盛り上がっている。また、施設の会報（手書きB4ピンク紙）「すこやかかみだより」を町内の回覧板で、地元小学校区3,330世帯へ12年間、毎月欠かさず回覧していただいている上、おまつりの前には、この全戸の世帯へ、三角抽選券付きの里まつりチラシを全戸配布できるシステムになっている。

そのような中、4年前当時の東部中学校の校長・教頭先生の依頼で、新しくその年から始まった「東部中コミュニティ大学」（総合学習1・2年生各11学科）の「福祉学科1年生」の授業の講師を引き受け、生徒たちと一緒に福祉について考えたり、すこやかかみ入居者・利用者とも交流するに至った。

実施内容

<東部中学校の福祉教育への協力>

- ①東部中学校1年生コミュニティ大学「福祉学科」の授業講師（毎年6月～11月のうちの7回、各100分ずつの授業展開の計画、準備及び実際の授業など。手話体験、紙オムツをはいての授業体験。目の見えない人の体験として、アイマスクをつけて2人1組ですこやかかみまで歩く体験、高齢者の気持ちになってのゲーム体験、戦争と福祉について考える企画、ボランティア体験、車椅子に乗っての授業体験等）
- ②すこやかかみまつり（ダイルームで8月に毎年1週間行われるおまつり）へのボランティア参加
 - a. 「福祉学科」コース生徒さんのボランティア参加（各

コーナー担当)

- b. 「日本文化・着付け教室」コース生徒さんの浴衣姿での参加
- ③すこやか会すこやかの里まつりへのボランティア参加及び作品展示
 - a. 「福祉学科」コース生徒さんのボランティア参加（各コーナー担当）
 - b. 1・2年生の「パステル画」コース・「書道」コース「粘土工芸」コース等の作品展示・「福祉学科」コースの活動紹介
- ④1年生の生徒全員向け「福祉体験学習」事前学習会の講師
- ⑤吹奏楽クラブの毎年恒例クリスマスコンサートでの入居者・利用者との交流
- ⑥福祉施設の長として学校評議員に任命され、福祉分野から学校教育へ意見を提言

活動効果

<東部中学校1年生福祉学科の生徒さんの声>

福祉学科の学習を通して、生徒さん達の福祉に対する意識の変化が見られるようになった。「前までは、目の前に困っている人がいたのに、そのまま素通りしてきたけど、今はすぐに助けることができるようになりました。この福祉学科に入って、人の気持ちがよくわかるようになりました。」(Kさん)等

<地域の反応>

- ①福祉学科に取り組んで、4年目なので、1回目の生徒さんはすでに高校生になっているが、その元生徒さんを含め、かかわったことのある人たちが町内や校区内で公用車を見ると「あっ、すこやかだ!」と気軽に手を振ってくれたり、お年寄りに声をかけてくれたりするようになるなど活動の広がりが見られる。
- ②「すこやかの里まつり」には地域の住民もたくさん参加していただいているが、自分の子供や孫の作品を見に来ることで、里を身近に感じるよい機会となる。

<利用者・入居者の反応>

元気のよい中学生がたくさん来て、校歌等を歌ってくれたり、行事のボランティアをしてもらえることにより「若さをもらえる」と大評判である。

今後の課題

- ①コミュニティ大学・福祉学科としては、4年目になっているが、この講師を務めているのが現在所長1名なので、今後の展開や継続性を考えて、複数の講師陣で対応していくことが求められる。
- ②授業の中で必ず、「ケアハウス入居者の戦争体験談」を文章で紹介し、戦争と福祉について、生きた教材から学べるようにしているが、入居者自身に直接語ってもらえる機会を作っていく、若い世代とのつながりをつけることも必要だと考えている。
- ③「福祉学科」授業に限らず、「地域の中で、地域と共に」を目標に施設の運営に努力している。自宅での入浴が困難な高齢者や障害者が大浴室を平日午後利用できる「会員制 ゆうゆうデー」(保健所に「その他の公衆浴場」の届出済)等、施設の有効利用を進めてはいるが、本格的な公益事業展開には至っていない。すこやか会すこやかの里としては、この分野での前進が鍵だと考えているので、事業展開に向けての研究・具体化が課題である。

